

令和 8 年度第 1 回飛騨・世界生活文化センター評価員会議 議事要旨

○日時 : 令和 8 年 8 月 2 6 日 (水) 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 0 0

○場所 : 食遊館 2 階 会議室 2

○出席者 :

【評価員】

岩塚久案子、沖畑康子、布目美智男、丸山千絵、山田雅彦

【指定管理者 飛騨コンソーシアム】

センター長 大萱真紀人、運営アドバイザー 六角裕治、その他職員 2 名

【岐阜県 (文化創造課)】

文化施設企画監 児玉忠哲、文化施設係長、文化施設係担当

【評価員会議 議事要旨 (質疑応答・意見)】

< 評価員 >

- ・熊本地震において、イオンモールの事故があったが、避難後は戻らないなどの既存のマニュアルを見直された事項があれば教えてほしい
- ・白川村では新庁舎建設にあたり説明会があった。令和 1 1 年 8 月に開庁予定で、構想では、役場内に住民の憩いの場や展示スペースを設けるとのこと。協議会事業における白川村からの参加率が著しく低いと、伊藤正道原画展をはじめとする企画展示の足掛かりとしていただきたい。
- ・資料 1 の p 1 1 に記載のあるオリジナル立志塾弁当とはなにか。
- ・SNS では企画の事前告知は行われているが、イベント当日の投稿が見受けられない。参加者の笑顔や会場の様子を発信することで、事業の魅力や活気が伝わるのではないか。
- ・除雪用ホイールローダの定期検査を実施したとの報告があるが、この検査はリース契約に含まれていないものを自主的に実施したものか。
- ・備品について、プロジェクターズームレンズを購入されている。高額な備品の調達であるが、競争入札等のルールがあるか。

< 指定管理者 >

- ・安全管理体制については、大規模イベント前に緊急時はスタッフの指示に従うよう周知しており、来場者による独自判断での行動は控えさせている。また、安全確認が完了するまで室内への立ち入りを認めない運用としている。瞬間停電時にはエレベーターやエスカレーターが停止するが、職員が速やかに現場確認を行う体制を整えている。ガス漏れ等の緊急時についても、電気室が 1 か所に集約されているため迅速な状況確認が可能

である。

- ・また、飛騨センターは災害時には避難所となる。熊本地震では避難所でコロナが発生したとのことだが、飛騨センターでは施設の構造上、受付を複数に分けて、患者を分けて収容可能である。
- ・オリジナル立志塾弁当とは、飛騨地域の特産品が入った弁当である。包装紙にはお弁当に入っている飛騨特産品の歴史など説明書きがあり、読んで楽しみながらお弁当を食べられるもので、次世代のリーダー（小6～中2までの30名程度）にふるまった。
- ・SNSの発信方法については見直していく必要があると考えているが、現状はイベントの開催周知が中心となっている。今後は、当日の様子を伝える投稿についても充実させていきたい。
- ・除雪用ホイールローダはレンタルしているが、経費削減のため、点検費用や消耗品費は契約に含めず、必要に応じて調達している。また、運転は大型特殊免許を保有する職員が行うため、機械のみのリース契約としている。
- ・備品については飛騨地域の業者から調達するようにしている。市内の業者は入札参加資格登録を行っているところが少ないため、一般競争入札はしていないが、公平性を確保するため相見積もりを取得している。

<評価員>

- ・飛騨家具フェスティバルについては、今年度は高山市全域を会場として開催していると聞いている。来場者数は昨年度と同程度の規模であったのか。また、開催方法の変更による来場者数や事業効果への影響があれば伺いたい。
- ・オープンカレッジでの収入は、当初予算を上回り、見込みの2倍近くの収益を上げていることから、県民の本事業への関心の高さと意義の大きさがうかがえる。また、お仕事魅力発見も非常に意義深く、参加した児童の保護者からは、「このような貴重な体験が飛騨でできることに感激した」との声をきいている。
- ・数々の意義深い自主事業について、今後どのような展開となるのか、また、施設全体としての活用方針について、現時点で示せる範囲で伺いたい。
- ・防災機能の存続を期待する。

<指定管理者>

- ・飛騨家具フェスティバルは木工連合会が主催しており、構成企業の社長交代を契機に、従来の手法の見直しがされている。また、旭川や大川をはじめとする全国の家具産地との連携を強化し、産地間が連動した取り組みにも力を入れている。さらに、近年はバイヤーの購買行動が変化し、産地での商談よりも各ショールームで契約するケースが増えていることから、製品を一堂に集めて開催する現在のフェスティバルのあり方についても検討を進めているところである。

- ・オープンカレッジでは著名な講師による講座は想定する受講者数を上回る傾向にある。
また、講師の経歴や実績を公開することで受講内容をイメージしやすくなり、参加の判断材料となったことが、参加者数の増加につながったものと考えられる。

<岐阜県>

- ・指定管理の自主事業はすでに廃止しているため、現在行っているのは活用推進協議会事業である。
- ・防災拠点については、岐阜県のホームページの FAQ において、「飛騨センターの防災拠点機能を廃止しても問題はない」との見解が示されている。これは、他の防災拠点との連携・補完により、安全性を確保できることを前提としたものである。もし、当センターが引き続き防災拠点として必要であると判断される場合は、防災部局へ移管することとなる。
- ・飛騨センターの来年度以降の利活用については、サウンディング調査の結果、3 社から参加申込があったことを公表している。現在は、提案内容が適法かつ実現可能なものであるかを確認するため、応募事業者への個別ヒアリングを実施しているところである。
9 月には、利活用のために求める条件に合う応募の有無を公表する予定である。
- ・現在は令和 9 年 4 月 1 日以降の予約は受け付けておらず、新規予約を見合わせている状況である。

<評価員>

- ・利用者にとって気持ちよく利用できるよう維持管理がされている。
- ・稼働率の推移について、令和 6 年度は非常に利用者数が増えているが、その要因はなにか。

<指定管理者>

- ・令和 6 年度は国民文化祭及び全国高等学校総合文化祭が開催されており、それに伴う大規模イベントの開催により例年よりも多くの利用があった。
- ・コロナ禍の収束に伴い利用形態が平常時の状態に戻り、イベントが開催されるようになったことも要因の一つと考えられる。

<評価員>

- ・令和 6 年度に特別な要因があったということであれば、7 年度に著しく利用者が減少したということではないと感じられるが、目標値に届かず指定管理者としても満足のいく結果でなかったとのことであるため、今年度の利用者数増加に期待している。

<評価員>

- ・利用者の感想から、気持ちよく利用されていることがわかる。
- ・利用者数が減少していることは残念であるが、利用者が安全かつ安心して利用できる環境の維持に努め、適切な管理運営を行っていることは高く評価できる。

<評価員>

- ・弊社社員から、夏季に開催されたキッズホールに家族で参加し、大変満足したとの声を聞いている。子どもを安心して遊ばせることができる貴重な場であるため、夏季に限らず、他の季節にも定期的に開催していただきたい。

<評価員>

- ・今後、活用推進協議会は活動が続くのか

<岐阜県>

- ・活用推進協議会の活動については、岐阜県と3市1村の資金の拠出によるところである。当課としては予算を要求するが、県内部でどのような判断がされるかはわからない。
- ・岐阜県は厳しい財政状況の中、毎年度、事業の必要性や効果を精査しながら県政運営を行っている。そのような中で、県民の生命・身体・財産の安全に直接関わらない文化ホールは、見直しの対象となりやすく、実際に全国各地でホールの閉鎖事例も見られる。
- ・当課が所管する岐阜県県民ふれあい会館のサラマンカホールや、ぎふ清流文化プラザの長良川ホールはいずれも稼働率が8割近くあるものの、全庁的な見直しの中では飛騨センター同様優先的な検討対象となっている。施設のあり方を検討する際には、県民にどの程度利用されているかという稼働率が重要な判断材料となり、その点が検討の優先順位に影響することをご理解いただきたい。
- ・飛騨センターはまだ新しく、新たな利活用が可能な施設である。そのため閉鎖ではなくサウンディング調査により有効活用策を模索しているところである。

<指定管理者>

- ・指定管理者のなくなった後は、事業の移管を検討する必要があると考えている。協議会事業である「氷と灯りの祭典」は、もともと高山市観光協会が実施していた事業を引き継いだものである。今後、飛騨センターが別の用途で運用されることとなった場合でも、継続が望ましい事業については各自治体の首長へ協力を依頼し、飛騨・世界生活文化センター活用推進協議会とは別の組織を立ち上げて運営していくことも可能であると考えている。